

Form B-2  
(FY2018)

Date (日付)  
28/03/2019 (Date/Month/Year: 日/月/年)

**Activity Report -Science Dialogue Program-**  
(サイエンス・ダイアログ事業 実施報告書)

- Fellow's name (講師氏名): Jarosz Aleksandra Natalia (ID No. P17303)

- Participating school (学校名): 開邦高等学校

- Date (実施日時): 19/03/2019 (Date/Month/Year: 日/月/年)

- Lecture title (講演題目): The past and present of Ryukyuan languages

- Name and title of your accompanying person (講義補助者 職・氏名)

\_\_\_\_\_

- Lecture format (講演形式):

◆Lecture time (講演時間) 60 min (分), Q&A time (質疑応答時間) 30 min (分)

◆Lecture style (ex.: used projector, conducted experiments)

(講演方法 (例: プロジェクター使用による講演、実験・実習の有無など))

プロジェクター使用による講演

- Lecture summary (講演概要): Please summary your lecture 200-500 words.

講演の始めに、自己紹介に兼ねて、母国のポーランドのことを簡単に紹介した。講演の本番に入ると、最初に「言語」と「方言」の定義を提供し、それらの定義は言語学的な基準ではなく、政治的、地理的、歴史的な基準によることが多い点に主眼を置いた。これを踏まえ、琉球諸語を日本の中の少数言語・危機言語として描写した。さらに、日流語族、特に琉球諸語の実例を用い、言語変化、言語や語族の誕生、祖語の分岐などの概念を説明し、比較言語学において使われる方法論を簡単に説明した。最後に、琉球諸語の消滅危機言語という位置に注目し、どのような経緯でこんな現状にたどってきたか、そしてどうすれば琉球諸語が守れるか、記録保存や復興活動について触れた。自分の現地調査で撮れた音声も流し、生の琉球語(宮古語)を生徒に味わってもらえた。

- Overall advice or comments to future participants in the program (今後の講師へのアドバイス):

講演の内容に合わせたスライドを日本語で準備しておくとし、生徒の理解度も高くなり、講演の追跡も楽になるのではないかと思います。同様に、質疑応答の際、専門性の高い英語に困っている生徒を日本語で話させても談話が弾むはずである。

- Other noteworthy information (その他特筆すべき事項):